

令和6年度 適塾特別展示／大阪大学総合学術博物館 第19回特別展

【大阪大学微生物病研究所創立90年・藤野巖九郎生誕150年】

三人の藤野先生、

その生涯と交流

— 升八郎と洪庵、巖九郎と魯迅、恒三郎と遼太郎 —

がんばろう！
北陸

令和6年(2024年)

4月24日(水)

6月22日(土)

※日曜・祝日は休館日。ただし、5月3日は開館

開館時間 10時30分～17時00分(16時30分最終入館)

入館料 無料

会場 大阪大学総合学術博物館

待兼山修学館 3F多目的室



藤野巖九郎



増田 八郎



司馬遼太郎



惜別 藤野



大阪大学微生物病研究所長(第4代) 藤野恒三郎



藤野升八郎(1819-82)は、越前国坂井郡本荘村(現・福井県あわら市)の医家に生まれ、在村医として地域医療に貢献しました。弘化三年(1846)に大坂の適塾に入門した升八郎は、帰郷後も師・緒方洪庵と交流し、洪庵の息子たちにも慕われました。

升八郎の三男・巖九郎(1874-1945)は、仙台医学専門学校(東北大学医学部の前身)教授を勤め、のちの文豪・魯迅を熱心に指導しました。魯迅が終生尊敬した恩師を描いた自伝的回想記「藤野先生」は教科書に掲載され、巖九郎は中国で有名です。

升八郎の孫で巖九郎の甥にあたる大阪大学微生物病研究所長(第4代)・恒三郎(1907-92)は、腸炎ブリアオ発見の功績を挙げた細菌学者です。さらに医学史研究、適塾の顕彰活動に取り組み、適塾を通じて歴史小説家の司馬遼太郎と親交を深めました。

本展では、本学微生物病研究所創立90年・巖九郎生誕150年の節目に当たり、藤野家伝来の資料を中心に、三人の藤野先生の生涯と交流をひもときます。三人の系譜を辿り、藤野家に流れる適塾の精神に迫ります。



緒方洪庵

*画像について

- ・緒方洪庵肖像(五姓田義松画) 適塾記念センター蔵
- ・藤野巖九郎肖像(裏に巖九郎が魯迅に贈った「惜別」のサイン) 個人提供
- ・魯迅写真(サイン付) 松江市立鹿島歴史民俗資料館蔵
- ・藤野恒三郎肖像 適塾記念センター蔵(藤野家旧蔵)
- ・司馬遼太郎肖像 司馬遼太郎記念館提供
- ・カルペパー型顕微鏡 適塾記念センター蔵(藤野家旧蔵)

